

平成27年度（第38期）事業報告書

ここに当社第38期の事業概要についてご報告申し上げます。

当期における我が国経済は第2次安倍政権発足以来3年あまり、前年4月の消費税率8%への引き上げによる下押し影響を払拭すべく異次元のマイナス金利政策で長引いたデフレ経済脱却への総仕上げを図っております。今後は、『2020年東京オリンピック開催』に向けた経済効果向上策による産業界、スポーツ界の文化振興などの各分野での盛り上がりが期待されております。

全国的に中心市街地が衰退する中、中核市高槻は賑わいある“活力あるまちづくり”と“住みやすさナンバー1のまちづくり”をめざし、平成21年12月に国（内閣府）の認定を受けた「高槻市中心市街地活性化基本計画」に基づく都市機能活性化事業が活発化しており、JR高槻駅北東地区開発事業の「MUSEたかつき」整備事業はすでに完成し新たな賑わいを創出しております。

高槻市の玄関口であるJR高槻駅は、JR西日本管内でも1日12万人超と屈指の乗降客がありますが、狭隘な駅構内の安全性向上に向け上下線1番ホーム、4番ホームの外側に特急・新快速専用ホームが新設され平成28年3月26日より供用開始しております。この専用ホームの転落防止のループ柵設置がネット上で話題を呼んでおりますが、従来の西口改札口とは別に新設各ホームに自動化乗降口を設置するなど乗降客への利便性向上を図っており、今後は西口改札口を含めた乗降客の流動化対応策が必要となるものと思料するものであります。

高槻市内初の新名神高速道路インターチェンジ開通に向けた周辺道路建設工事も急ピッチで進められており、新名神・名神高速道路を結ぶ新たな交通網整備事業は商工事業者の流通拡充策として期待されております。文化振興策として「市民とともに育てつづける安満遺跡公園」の整備も進められ活力ある中核市高槻として「みらい・創生」をめざした次なる中心市街地活性化施策への期待が膨らんでおります。

当社は、昭和53年5月4日に高槻市唯一の第三セクターとして国鉄高槻駅南再開発事業の中核会社として設立され、平成27年度には創立38年を迎えることができました。

主要業務であるJR高槻駅前広場の管理受託業務、再開発ビルのグリーンプラザたかつき1号館、3号館のビル管理業務、JR高槻駅南地区周辺地域の駐輪施設事業、損害保険会社6社の代理店業務及び周辺関連業務を長年に亘り地道に堅実に積み上げ、信頼と信用を培って参りました。平成16年9月16日開設の官・民・事業者の三者協働事業の「駐輪機設置による駐輪施設」事業は、安全安心の「まちづくり」と共に清潔で整然とした駐輪環境で快適な駅前景観を回復するとともに、営業基盤拡大による収益力強化が図れております。

平成21年12月からは高槻市中心市街地活性化協議会事務局として、中心市街地都市機能の充実に向け地域社会に貢献しております。

今年度は、JR高槻駅の上下線特急・新快速専用新ホーム設置工事の支援事業としてJR西口改札口整備工事と駅前南地区再整備工事が本格化して狭くなった駅前広場のバス乗降客と買物客の自転車往来混雑が顕著化していましたが、市民の皆様が安全安心の利用ができるよう適切な維持管理に努めて参りました。

今後も役職員一同、長年培ってきた信頼と信用の営業基盤の拡充を図り、より強固な収益基盤構築ができるよう社業に専念し、地域社会に貢献して参ります。

以上